

生活の楽しみへアプローチ

介護主任 溝口 聖
生活相談員 西村貴徳

特別養護老人ホーム 西貝の郷

概要

西貝の郷は、平成14年12月開設の全室個室・ユニット型の特別養護老人ホームです。
ご入居者様お一人おひとりの生活暦やこれまでの習慣、嗜好、価値観を尊重した個別の介護を心がけています。ショートステイとデイサービスも併設しています。

エピソード1 「満足とは・・・」

開設10年目。自施設を振り返った……

施設としてご入居者一人一人の「尊厳」を大切に
して運営してきたが、そこが支えられれば本当に
ご入居者は満足して下さっているのか？更なる満
足を求めていく為に取り組みを実施。

「入居者にとって生活の満足とは……。」

1.「聞いてみる」

ご入居者の思いを聞いていくが

満足だ
よ。

贅沢したらパチがあ
たる

寝たい！

迎えが来ない

具体的な希望や本当の思いを聞くことができな
かった。簡単に聞けると思っていたが……。

2.「推測してみる」

・具体的に聞けなかったのはなぜ？

- ・本当に「満足」と思っていただけではないか？
- ・ご入居者が遠慮しているのではないか！？
- ・やりたいことを選択肢を出すことができていないのでは
ないか！？
- ・職員の受け止める力が不足しているのではないか！？ 等

推測結果：私たち施設側が思いを打明けられない環境を
作ってしまっているのではないか。

3.「行動してみる」

・入居者の趣味嗜好を探る為、色々な角度からイ
ベントを企画。

- ①「楽しみ」「笑い」とことん引き出してみよう。
「やってみたい」という気持ちに繋げていき
たい。
- ②イベントを主催する側(職員)がまず楽しんでみ
よう。楽しむことで「満足」していただける喜びを
※職員本位とも考えられたが思いが引き出せる環
境を作ることができるのではないか……！？

4. 事例 失敗!?

- 楽しめた
- やりすぎ
- お下品?
- ボランティアさんもいっぱい呼んだ

5. 「振り返る」 反省!?

気持ちを引き出すと言いつやっぱ職員の自己満足になっていたところも大きかったのではないかな。

ただ・・・ご入居者も楽しくなかったわけではない。



「楽しみ」「笑い」につながった。必要なことではある。



でも「生活」はイベントだけでなく継続的なものではないかな。

エピソード2 「そして生活へ」

- エピソード1の結果・評価を基に考えた。
- イベントは必要だが、継続的な楽しみ生活上での趣味やこだわりを大切にしたい。
- ご入居者は人生の大先輩、「わび」「さび」も知り尽くしている。面と向かって聞いてもやっ
- ぱり真の思いはなかなか聞けないのが現状である。

1. 「生活を見直す」

- 「満足」という言葉ばかり気にしていたけど1人1人の生活に入り込むのは非常にデリケートなことである。
- 趣味1つとっても1人1人違い、本格的にやっ
- ていた方もいれば誘われてやっている方や趣味がないからやってみた方もいる。人それぞれだが、そこを知ろうとしなければ満足に繋げられない。

2. 「そっと聞いてみる」

もっと自然な事で改めて聞く必要はなく日常の中でヒントが落ちている。



日常の会話の中の「つぶやき」に耳を傾けた。

3. 「生活の中で」

TVを観ていた中で

寿司食いたいなー

あの帽子おしゃれだね

カップラーメンとんこつ味かつ

あのクリーム30歳若返るって

いい曲ね

家族が恋しい(ドラマにて)

イチゴ狩りに行ってみたい

4.「会話の中で」

ご入居者同士の会話の中で

お宮さんへ行っ
てないわねー

毎晩飲み歩いて
たぞ

昔から朝はパン
と決めている

8人の子供を1
人で育てたのよ

書道で賞をもらっ
た事がある

一眼レフのカメラ
を持ってて

5.「イベント中にて」

イベント参加中の会話

フラダンス見て
みたいな

ハーモニカの吹
き方を習いた
い

一緒に踊って
みたい

みんなで体をうご
かしたい

一つ一つの会話に少し耳を傾けるだけで
色々な気持ちが聞けた。

6.「つぶやきを受け止める」

そのままの「つぶやき」を受け止め、全体で
できるものだけではなく、個人の「つぶやき」
に対して対応していくことにした。



個別のニーズにアプローチしていけば「生
活の満足」に繋がるのではないかな。

7.「個別のアプローチ」

個別のニーズを充足

買物

おしゃれ

食

外出

趣味

8.「イベント」

専門の先生にお願いしクラブ活動を本格的
で目標のある物に！

音楽→ハーモニカ教室

書道クラブ→書道教室

9.「環境作り」

毎月のスケジュールを明確にしより参加し
やすい状況を作る。

「やらされる」「参加させられる」のではなく自
ら選んでいただく。

職員も叶えられるニーズは「プロ」として、
とことん向き合う



10.「振り返る」

自分を発揮できることにより、やりたい事をやりたいと言える、自己実現や表現の場を作ることができた。

自発的に活動に参加される姿も増えていき一人一人内容は違うが継続的な生活に結びつけることができたのではないかな。



職員の気持ちも一回り大きく。喜びを共感できると言うことを知った。

11.「結果」

「ご入居者の満足とは」と始めた研究は、買物・趣味・ふれあいと年齢が違えど私たちもご入居者も生活に求める満足は同じであり、より自分の思いを聞いてもらえるかだと改めて感じた。そして「満足」に繋がっていっただけでなく職員の「満足」にも繋がりモチベーションアップにも繋がっていった。これこそWINWINの関係なのではないかな。

12.「今後に向け」

まだまだ、職員の自己満足になってしまっている事もある。ただ、この気持ちを基にもっと「満足」について追求していければと考えている。また、いい意味で多様化したニーズにどうアプローチをかけていくのかも今後の検討課題だと感じている。また、今回の研究で介護の可能性や他人の人生に寄り添うことのできる魅力を色々な方と共感していきたいとも強く感じた。

13.「さらに・・・」

西貝の郷ではH24. 4より施設内通貨「トク」を作成。疑似社会体験として生活の役割の明確化や目標に対する気持ちを高める活動を開始しました。